

学 習 日 誌

9月 22日 (金)	講 師	生田流 弥生会 大友志保師範 外 3 名
出席者数 74名	記 録 者	7年 12班 大竹一夫
講 座 名	視聴覚講座1「箏・三味線の演奏」及び合唱	
プログラム担当者	視聴覚講座グループ	
時 間；場 所	第一集会室 13：30～15：30	

【学習内容】

概要：座間を本拠として活動する 箏・三味線の「生田流 弥生会」による演奏がありました。会場の皆さんと童謡などを合唱し、箏の解説・箏の演奏体験などもあり楽しい講座となりました。



演奏者4人の紹介（鈴木氏撮影）



演奏を聴くあすなろ生（山田氏撮影）

1. 箏・三味線の演奏（5曲）

・千鳥の曲（箏2面による合奏）

吉沢検校（1800年生れ 幕末に 名古屋・京都で活躍した盲人音楽家）が作曲。「古今和歌集」「金葉和歌集」より千鳥を読んだ2首を歌とした。前奏部や長い間奏部を加えて作曲、千鳥を彷彿とさせる音調です。

・さらし風手事（箏4面による合奏）

宮城道雄（1894年生れ 昭和以降で活躍した箏曲の作曲家・演奏家）作曲。京都の宇治川で布をさらす様子を歌った曲で、大勢で声を掛け合いリズムカルに 川音なども描写した。

（写真森氏撮影）



・六段の調（箏・三味線の合奏）

八橋検校（300年前頃の人で箏曲の祖と言われた）作。箏曲の基本と言われる曲で、器乐的に音と音の絡みを音楽的に表現したもの。（写真森氏撮影）



- 春の海（箏2面による合奏）

宮城道雄作の箏と尺八の合奏曲で、正月に流れる定番曲です。瀬戸内海の島の様子、のどかな波の音、船の櫓をこぐ音、鳥の声などを織り込んだ曲です。今回は尺八のパートを箏に替えての演奏です。

- 瀬音（箏と十七弦の二重奏）

宮城道雄が利根川の流れを曲に纏（まと）めたと言われています。川の瀬音・急流の音・岩に当り砕けるさざ波の音などが想定されます。十七弦による低音の効果を盛り込み 最大限箏の技法を用いた曲だそうです。

2. 箏の解説など

箏の歴史と素材

箏は中国で生まれ、奈良時代ごろ雅楽を演奏する楽器として日本に伝来した。伝統的な箏は、桐の木をくりぬいて作った胴に13本の弦を取り付けている。その外 箏各部の説明、演奏方法、著名な作曲者の説明などがありました。

3. 箏の演奏体験

箏4面を使用して、実際に箏に触れ「さくらさくら」のフレーズの演奏体験がありました。



箏の説明（鈴木氏撮影）



演奏体験（森氏撮影）

感想

箏の文字は古い書体 篆文（てんぶん 2200年前頃の漢字の書体）にも見えます。但しその頃の箏は 本体が竹で5本の弦 だったそうです。

箏の生演奏を初めて聴きましたが、中々いいですね。江戸時代以前まで、日本は中国文化の影響を受けていたので 箏の音色がどこか心に響いた かもしれません。また別の機会があったらお願いいたします。

尚 写真をご提供頂きました、鈴木氏、山田氏、森氏、の各氏には厚く御礼申し上げます。

—以上—